

# アンナ・カレニナ

Anna Karenina

鑑賞日 2017・7・10

製作 2012年 英・仏

上映時間 130分

公開 2012年(英) 2013年(日本)

監督 ジョー・ライト

原作 レフ・トルストイ

脚本 トム・ストップード

出演 キーラ・ナイトレイ、ジュード・ロー、アーロン・テイラー・ジョンソン

ドナルド・グリーンソン

## (あらすじ)

19世紀のロシア、政府高官カレニン伯爵（ジュード・ロー）の妻アンナ・カレニナ（キーラ・ナイトレイ）は社交界の花で、人々の注目の的である。しかし、年の離れた夫との仲に愛はなく、空疎な日々が続いていた。アンナの兄のステパン・オブロンスキー公爵（マシュー・マクファディン）が浮気が原因で離婚騒ぎとなり兄に呼ばれてモスクワにやってきたアンナはモスクワ駅で青年将校アレクセイ・ヴロンスキー伯爵（アーロン・T・ジョンソン）と出会う。アンナは兄嫁のドリー（ケリー・マクドナルド）を説得し、兄と仲直りをさせたあと、舞踏会でヴロンスキーと再会する。ヴロンスキーがドリーの妹キティと交際していることを知り、後押ししようとするが、逆に彼が、自分を好きなことを知って、動揺してしまう。夫と子供がありながら、若いヴロンスキーに心が騒いだことに罪の意識を感じて、すぐにサンクトペテルブルグに帰ろうとするが、同じ列車にヴロンスキーも乗り込んで追いかけてきた。アンナはヴロンスキーを拒絶しようとするが、言葉とうらはらに、浮き立つ心をどうしようもできなかった。

アンナの兄の友人リョーヴィン（ドナルド・グリーンソン）は、ドリーの妹のキティに求婚するためにステパンを訪れ、応援を頼むが、ヴロンスキーが好きなキティに断られる。アンナとヴロンスキーとの仲は社交界では公然の秘密となる。カレニンはアンナに忠告するが無視され、それ以来、見てみぬ振りをするようになる。アンナはヴロンスキーの子供を宿した。競馬の障害レースの日、ヴロンスキーが落馬したところを見たアンナは泣き崩れてしまい、そのことを夫からたしなめられたアンナはヴロンスキーを愛していることを告白してしまう。夫はショックを受け、自分の名誉が傷つかないように対面を保ってもらいたいと言うしかない……

## (解説)

トルストイの原作をトム・ストップードが脚色し、ジョー・ライトが監督した。総てを捨てて、許されぬ恋を選んだアンナのたどる道は険しい。しかし、監督のジョー・ライトは舞台劇、人形劇、絵画まで用いる大胆な演出でケレン味たっぷりの映画を作った。原作同様にトム・ストップードもアンナの対極にアンナの兄の友人リョーヴィンを登場させる。一度は断られたキティと結ばれたあと、田舎に戻り、農民と共に収穫にいそしみ、平穏な家庭を営む夫妻の姿を捉えて映画は終わる。